

特集「宗教と文化」Ⅱ

日韓共同シンポジウム「知の統撰・統合について」

金 承 哲*

2008年11月22日（土）、「知の統撰・統合について——韓国と日本におけるE・O・ウィルソンの理解を中心に——」というテーマの下で、日韓共同シンポジウムが開催された。このシンポジウムは、金城学院大学キリスト教文化研究所と韓国・ソウルの梨花女子大学「統撰苑」との共同主催として、梨花女子大学で開催された。

金城学院大学キリスト教文化研究所は、2004年度より、「宗教と科学の対話」というプロジェクトの中で一連の研究を行い、2005年11月には元スイス・バーゼル大学神学部教授のハインリッヒ・オット氏を招き「宗教が見る現実・科学が見る現実」という主題でシンポジウムを開催し、この研究会とシンポジウムの結果をまとめ、『宗教・科学・いのち：新しい対話の道を求めて』（新教出版社、2006年）を出版した。

金城学院大学キリスト教文化研究所の「宗教と科学の対話」のプロジェクトは、2007年度よりは、「知の統合についての研究」というより具体的な研究目標を目指すことになった。周知のとおり、「知の統合」とは、米

* 金城学院大学宗教主事，人間科学部教授

国の社会生物学者のE・O・ウィルソンが唱えた概念であり、今度のシンポジウムの主題でもあった。ウィルソンの「知の統合」という考え方は、いろいろと批判的になっているものの、近代化以来、細分化を極める学問分野をまたぐことができる統合的知の模索のために、示唆に富むところが多いと思われる。

近代以来、知の分裂の様相を呈している諸学問分野においては、諸分野をまたぐ知の統合の可能性を探し求める課題が与えられている。こうした「知の統合」の必要性については、昨今の学問の世界においても認識され始めている。たとえば、日本学術会議の「科学者コミュニティと知の統合委員会」は、「社会のための科学」という旗幟を立て、「異なる研究分野の間に共通する概念、手法、構造を抽出することによって、それぞれの分野の間に知の互換性を確立し、それを通してより普遍的な知の体系を作り上げる」ことを呼びかけている（『提言：知の統合——社会のための科学に向けて』平成19年）。韓国においては、ウィルソンの著作の翻訳者でもある梨花女子大学の崔 在天氏の活躍により、「統摂」という概念が社会におけるキーワードにもなっていると伺っているが、こうした現象も「知の統合」をめぐる関心が高いことの証左であろう。（崔氏は梨花女子大学の「統摂苑」の責任者である。）

今度のシンポジウムにおいては、E・O・ウィルソンの「知の統合・統摂」という概念が日韓両国においてどのように受容されているのか、また、それがどのように批判されているのかについてそれぞれ発表され討論された。（残念ながら、「知の統合・統摂」についての批判的意見「韓国のウィルソニアンの統摂論の誤謬」を述べる予定であった金 治榮氏は、所属大学での急務のことで出席できず、その原稿を金 潤成氏に代読してもらった。）さらに、ウィルソンの社会生物学的主張が「宗教と科学の対話」という枠の中でどのように位置づけられうるのかについても活発に議論された。それぞれの分野において研究発表に関するコメントが行われ、最後は

総合討論に入り、討論は予定した2時間をはるかに越えて真摯に行われた。なお、日本側の発表のみ金城学院大学キリスト教文化研究所紀要に掲載した。

本シンポジウムで発表され議論された内容は、今後日韓両国において単行本として出版される予定で、現在その作業が行われている。金城学院大学キリスト教文化研究所は、この本の出版をもって「金城学院大学キリスト教文化研究所叢書」のシリーズを刊行する計画である。

特に今度のシンポジウムにおいては、梨花女子大学通訳大学院の方々の協力を得て、同時通訳が行われ、活発な議論が可能になった。

このシンポジウムの開催のためにご尽力くださった梨花女子大学の崔在天先生と統撰苑の関係者の方々、シンポジウムの場所を提供してくださった梨花女子大学に厚くお礼を申し上げる。また、このシンポジウムの経費の一部は、2008年度市原国際奨学財団研究助成金（研究代表者：金承哲）によって充当された。この場を借りて、深く感謝を申し上げる次第である。

最後に、当日のシンポジウムのポスターをここに掲載する。

第2回統撰苑シンポジウム

知の統撰・統合について

——韓国と日本におけるE・O・ウィルソンの理解を中心にして

2008年11月22日（土）9:00－17:30

梨花女子大学 LG コンベンションホール：韓・日同時通訳あり

歓迎の挨拶

李^リ 慶淑^{キョンスク}（梨花女子大学大学院長）

シンポジウムの経緯と趣旨について

金 承哲（金城学院大学教授・神学）

発表1：知の統撰・統合とは何か 9:40－10:50

司会：中野修身（金城学院大学教授・教育人間学）

日本におけるウィルソン：知の統合

横山輝雄（南山大学教授・科学哲学）
韓国におけるウィルソン：統撰 チェ ジェチョン
崔 在天

（梨花女子大学教授・動物行動生態学）
コメント ゴ インソク
高 仁碩（仁荷大学教授・科学哲学）

発表2：韓国と日本における宗教と科学の対話 11:00－12:10

司会：キム ユンソング 金 潤成（ハンシン大学教授・宗教文化学）
日本における宗教と科学 竹田純郎（金城学院大学教授・哲学）
韓国における宗教と科学 シン ジェシク
申 在植

（湖南神学大学教授・組織神学）
コメント ホナム
ヤング ミヨンス
梁 明洙
（梨花女子大学教授・キリスト教学）

休憩 12:10－13:30

発表3：韓国と日本におけるウィルソンについての批判的理解

13:30－14:40

司会：小野知洋（金城学院大学教授・動物行動生態学）
哲学、倫理学からのウィルソン批判

音喜多信博（梶山女学園大学准教授
・哲学の人間学）

統撰に反対する——韓国のウィルソニアンの統撰論の誤謬

キム フフヨン ガンナン
金 治榮（江南大学教授・組織神学）
コメント 竹之内裕文
（静岡大学准教授・西洋哲学）

総合討論 15:00－17:00

司会：金 承哲（金城学院大学教授・神学）
総合コメントと感謝の辞 17:00－17:15

竹田純郎（金城学院大学教授・哲学）